

自治協ニュース

第0208号
発行者
八本松住民
自治協議会
R03. 1. 20

地域清掃団体「夢拾い」八本松支部（門田聖子支部長）は、1月2日（土）、今年初となる環境保全活動を行った。

新春の夢拾い

一人一人の心がけで未来が変わる

八本松駅周辺の清掃活動

環境対策委員会
夢拾い八本松支部



第91回新春の「夢拾い」に参加された皆さん

夢拾い八本松支部は、平成25年9月に発足し、雨天時を除いて毎月第一土曜の早朝5時から八本松駅周辺を清掃する活動を継続している。今回は通算91回目（令和2年は1月から12月まで9回）の活動で、八本松在住の6人が参加され、八本松西のミスターマックス八本松店から八本松駅までの沿道にポイ捨てされたタバコやペットボトル、駐輪場に落ちていたゴミや缶等を回収した。

また、この活動は、3年前から住民自治協議会・環境対策委員会の活動の一環として行われている。環境対策委員会の小池恵美子委員長は、「ポイ捨てされたプラスチックごみは回収されない限り、海洋のマイクロプラスチックチックとなり大きな構想とともに、日々の生活の中での諸課題にも着目し、その解決を図ることで地域の皆さまが住みやすいと認めていただける地域づくりを目指しますとともに、東広島市のモデル地域となれるよう努力して参りたいと考え

「夢拾い」は、毎月第一土曜の朝5時、ミスターマックス様駐車場にゴミ袋持参で集合します。活動時間は1時間、次回は2月6日（土）です。可能な方は、ぜひご参加を。

年頭の「ご挨拶」



八本松地 戎
住久岡 住民自治協議会会長

明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスの発生による感染拡大で、当協議会執行事業もやむなく中止せざるを得ない事態となりました。そうした中でも、防災・福祉・環境の各

委員会につきましては、地域の皆さまのご理解のもとに活動ができ、心より感謝申し上げます。さて、本年もコロナ禍の中で各事業に取り組むこととなりますが、あらゆる面で創意と工夫を凝らし対応をしてまいり

たいと思います。また、私たち自治協工リアも八本松駅前土地区画整理事業を始めたところ、今後順次進められ、今後10年を見据えた地域の新しいビジョンの構想を練る段階に入ります。こうした新ビジョ

ン構想とともに、日々の生活の中での諸課題にも着目し、その解決を図ることで地域の皆さまが住みやすいと認めていただける地域づくりを目指しますとともに、東広島市のモデル地域となれるよう努力して参りたいと考え

ています。今後とも、皆様方のご協力とご支援を賜りますようお願いいたしますとともに、ご健康とご健勝を祈念し、年頭のごあいさつとさせていただきます。住民自治協議会 会長 住久岡 章治

初日の出 2021.01.01 八本松南方面

認知症のある人 あなたはどう対応する

八本松みなみ 福祉情報交換会

12月27日（土）八本松みなみ地区福祉会（会長 藤原和雄）は、市地域包括支援センターの楠戸伸江さんと市社会福祉協議会の岡村智行さんを招き、八本松南集会所で今年度3回目の福祉活動情報交換会（参加者 会員23人）を行った。



認知症対応のビデオで研修する会員

今回は、最近「ご近所ホットお助け隊」の活動で、認知症の方の徘徊に遭遇したことから、「認知症の方への適切な対応」をテーマに研修と意見交換を行った。

正しく知って、 よりそって支援

研修では、包括支援センター提供のビデオで認知症の方の主な症状（物忘れ、妄想、徘徊）がどのような機序で発生する

かを知り、認知症の方の気持ちに寄り添い自尊心を傷つけないことがいかに重要かを学んだ。また、笑顔で接し本人のペースに合わせることで安心感が生まれ、納得していただくことができる事例も紹介された。

2025年 五人に一人は認知症

ビデオ解説をした楠戸さんは、「今後、認知症の方は増え2025年には65歳以上の5人に1人は認知症になると国は推定している。物忘れが多くなったらほおっておかず、活動的な生活に心がけ、脳の活性化が必要。更に、認知症になって

も本人ができるように寄り添って支援してあげることが重要です」と認知症対応のポイントを説明した。

また、岡村さんは、「地域福祉は、『見守り』

と『支え合い』と『つながり』が基本。これがしっかりできていれば、認知症になっても安心して暮らせる住みやすい地域となります」と述べた。

「家族との つながりづくり」も

意見交換では、「認知症の方の見守り」とも、ご家族の方がご近所等に相談できやすくなるよう、地域の活動をおし支援していける体制が必要」との意見が出た。

そのため、「現在、福祉会で行われている『挨拶と声かけ』、『定期的なブロックごとの情報交換会』や自治会の班で行われている『安否確認』等の活動が、地域と認知症ご家族とのより強い『つながりづくり』になるよう整理していく必要がある」との意見が出る等、熱心な議論が交わされた。

住民の要望に応え「お焚き上げ」

「どんど」中まで しめ縄等の供養・処理

八本松中央
自治会

八本松中央自治会（会長 常光 聡）は、1月10日（日）会長宅の広場で「お焚き上げの儀」を実施した。



「お焚き上げ」を行う神主婆の自治会役員

は、神主さんの装束をまといワエイシールドを付けた役員の方が定められた作法で拝礼。参拝者の方が玉串を供え供養した後に、しめ縄等に点火され「お焚き上げ」が行われた。

神主役を終えた若い役員の方は、「どんど行事ができなくてもこのような儀式に協力できて良かった」と感想を述べた。

また、準備に奔走した常光会長は、「このような時世なので住民の方の困りごとに工夫をしながら直ぐに伝えて行くことが自治会として大切なことと思う。今後、役員の方と相談しながら地域の皆さんが元気で過ごしていただけるよう対応したい」と抱負を述べた。

この儀式は、コロンナまん延に伴い地域の「どんど祭」が中止され、「しめ縄等の処理ができず困った」との地域の方の要請に応え急遽実施されたもの。儀式の

場には、自治会役員により回収された多くのしめ縄や古札、門松などが供えられ、役員方や儀式の協力者の方等約30名の方が参拝されていた。「お焚き上げの儀」